

賛助会員訪問記

凌和電子 株式会社 訪問

ホームページ：<http://www.ryowa-electronics.co.jp/>

平成 27 年 11 月 19 日(木)13 時 15 分~15 時 15 分、凌和電子 株式会社（宮城県仙台市）を宮本泰敬総務理事、押木満雅事務局長および杉村比登美事務局職員の 3 名で訪問した。凌和電子株式会社本社工場は、JR 仙台駅より南へ車で 10 分ほどの住宅街の中にあった。安藤仁司社長、川田 智取締役・営業本部長、高橋和男生産本部部長そして板垣 篤生産本部部長に対応していただいた。先ず、安藤仁司社長および川田氏より凌和電子の成り立ちや現在取組んでいる事業内容など OHP を用いて説明を頂いた。凌和電子は安藤社長の父君である現会長が、1972 年に電源回路の設計製造会社として仙台市に設立。山形工場を 1979 年に開設、本社工場を 1983 年に開設し今日に至っている。東北大学電気通信研究所との共同で高周波領域でのノイズ測定や透磁率測定装置などの開発を行う過程で、高周波領域での信号の扱いや配線技術などを習得。磁気計測関連装置の売上げ割合は小さいが、量産製造ライン検査装置では M&A など得た画像処理技術を駆使した「運びながら検査する」装置（量産ライン製品検査装置）の設計製造を行っており、その売上げ割合が大きい。また、東日本大震災で仙台市若松区は津波の甚大な被害を受けたところであるが、本社工場は同じ若松区でも海から遠く離れており被害が無かった。しかし何か復興に役立ちたいとの思いを抱いていたところ、自社保有の制御技術が石巻での水耕栽培ビニールハウスに、また Li 電池蓄電システムや LED 利用技術が再生可能エネルギーの利用拡大に繋がって行くなどの新分野へのチャレンジを皆様が熱く語られ、説明に引き込まれて行く感じでした。説明の中に、学会で良く耳にする先生方のお名前が頻繁に出来て更に楽しく聞く事が出来た。説明で受けた印象は、多方面の技術を保有し顧客のニーズを具現化して行く開発型企业である。最も重要な事は、顧客の難問にも積極的に取り組もうと言う企業姿勢ではないかと感じた。その後の研究開発室見学では手技術者が電子回路製作に半田銲を片手に細かい作業を頑張っている光景を目にすることが出来、企業スローガン「あらゆるニーズをオーダーメイドで対応」が若手技術者まで浸透している事を肌で感じる事ができた。

笑い声の絶えない取材であつという間に時間が過ぎ、技術について門外漢の私でも心地よくお話を伺いました。創業から培ってきた計測・制御に関する技術力をベースに、常に外に向かってアンテナを張り巡らし、さまざまな分野に対して地道に、楽しんで取り組んでいらっしゃる様子を垣間見ることができました。若手の育成はもちろん、ベテランも自ら率先してものづくりに励んでいる様子を垣間見る事が出来て凌和電子の強さの根源を見た気がしました。



取材風景



研究開発室



太陽光 Li 電池蓄電システム



本社工場